

沿 革

札幌農学校時代

- 明治9年8月 札幌農学校開講式，講堂に「書籍室」を設ける（蔵書6,149冊）
- 12月 講堂とは別棟に建坪15坪の木造瓦葺2階建て書籍庫を新築する
講堂内に雑誌と新聞の閲覧所「読書房」を設ける
- 23年11月 書籍庫を増築し，23坪の閲覧室と書籍館事務室を設ける
- 24年11月 書籍館主任（監守）として，新渡戸稲造が就任，最初の館長となる
- 33年2月 デューイの目録規則によりカード目録の作成に着手する
- 36年6月 現在のキャンパスに瓦葺き白亜の図書館を新築する

東北帝国大学農科大学時代

- 明治40年6月 札幌農学校の大学昇格に伴い，「東北帝国大学農科大学図書館」と改称する
- 大正3年10月 閲覧室と事務室を増築，電灯を設置し，夜間利用を開始する

北海道帝国大学時代

- 大正7年3月 「北海道帝国大学図書館」と改称する
- 11年5月 「北海道帝国大学附属図書館」と改称し，官制上の館長等の職制を設ける
- 12月 鉄筋コンクリート3階建て，延べ72坪の書庫を増築する
- 14年9月 木造平屋建て，60坪の雑誌閲覧室と事務室を新築する
- 15年1月 館員の研修と親睦の団体である「楡影会」を組織する
- 昭和4年10月 製本室28坪，印刷室7.5坪を新築する
- 11月 新聞閲覧室22.5坪を新築する
- 10年3月 書庫増築工事が完成する（鉄筋コンクリート3階建て24坪）
- 12年10月 北方文化研究室を設置する
- 11月 道庁収集資料，写本，図類，写真等7,000点以上が寄託される

北海道大学時代

- 昭和22年10月 官制改正により「北海道大学附属図書館」と改称する
- 23年6月 部局選出委員からなる「図書館拡充委員会」を設置する
- 24年4月 事務長制がしかれ，管理・整理・閲覧の3掛を置く
- 31年9月 創基80周年記念行事の一環として，閲覧室にクラーク博士の遺品を中心とした資料を展示する
- 1月 北海道地区大学図書館職員研究集会在発足する
- 38年5月 「図書館拡充委員会」を改組し，「図書館委員会」を設置する
- 11月 教養部内に附属図書館の分室を置く
- 40年4月 部課長制がしかれ，整理課及び閲覧課の2課5掛を置く
- 6月 図書館新営工事が完了する
- 41年4月 外国雑誌の一括契約を開始する
- 9月 創基90周年記念行事の一環として，「北大沿革資料写真展」を開催する
- 42年1月 北海道大学附属図書館報「楡蔭」を創刊する
- 6月 「北方文化研究室」収蔵資料を引き継ぎ，本館に「北方資料室」を設置する
- 44年10月 教養分館を新築する
- 45年9月 教養分館の夜間開館を開始する
OECD 出版物寄託図書館に指定される
- 46年1月 北海道大学沿革資料室を開設する
- 50年4月 法学部の図書業務を統合する
- 51年9月 創基100周年記念行事の一環として，「北大百年資料・写真展示会」を開催する
- 52年7月 教養分館の増築工事が竣功する

- 54年 4月 経済学部設置の国連寄託図書業務を図書館に移管する
- 56年 4月 言語文化部の図書業務を統合する
- 57年 3月 EC 資料センター (ECD) を開設する
- 58年 1月 外国官報, 議会資料コーナーを設置する
- 59年 6月 図書業務電算化委員会が発足する
- 60年 1月 図書館の増築工事が竣工する
北方資料展及び貴重資料展を開催する
- 4月 学術情報課を新設する
- 61年 3月 図書館専用電算機が導入され, 図書業務電算化及び蔵書のオンライン検索を開始する
学術情報センター目録システムに接続する
- 62年 6月 週及入力事業を開始する
- 63年 4月 整理課を情報管理課, 閲覧課を情報サービス課, 学術情報課を情報システム課と改称する
- 平成 2年 4月 経済学部の図書業務の部分統合を開始する
- 9月 北大蔵書データベース100万冊入力を達成する
- 4年 4月 学内 LAN (HINES) を介し MEDLINE, BIOSIS の文献オンラインサービスを開始する
学術情報センター ILL システムによる相互貸借サービスを開始する
- 5年 5月 週休 2 日制に伴う土曜開館を開始する
- 12月 教養分館に BDS (ブック・ディテクション・システム) を設置する
- 6年 3月 経済学部の図書業務を部分統合する
- 7年 3月 クライアント/サーバ方式の図書館情報システムが稼働する
- 4月 教養分館を北分館と改称する
- 7月 参考閲覧室に「国際資料室」を設置する
- 9月 北大附属図書館ホームページを開設する
- 8年 4月 教育学部の図書業務の部分統合を開始する
- 7月 本館・北分館に総合情報ターミナルコーナーを設置する
- 10月 北方マルチメディアデータベースを公開する
- 9年 3月 本館に BDS を設置する
- 4月 本館の土曜・日曜開館を開始する
- 10年 3月 北分館で国際ニュース衛星放送 (CNN) の視聴を開始する
- 10月 北分館の土曜・日曜開館を開始する
北海道大学附属図書館報速報版「楡蔭レター」を創刊する
北海道大学125周年史編集室が設置される
- 11年 3月 教育学部の図書業務を部分統合する
本館・北分館に学生証及び新利用証 (磁気カード) を利用した自動入館システムを設置する
北分館に自動貸出装置を設置する
- 6月 図書館情報システムによる図書購入依頼, 学外の図書借用及び文献複写依頼等の図書館情報 Web サービスの運用を開始する
- 12年 3月 本館に自動貸出装置を設置する
北分館 4 階を全面改修し, 3 階と 4 階の間に中階段を設置する
- 4月 北分館にマルチメディア公開利用室 (情報教育館 2 階) を設置する
- 13年 2月 i モード版利用案内を開始する
- 3月 本学沿革資料展示室, 貴重資料室を設置する
2 階・3 階を開架図書閲覧室, 4 階を参考閲覧室に改修する
北海道大学学位論文 (新制) データベースを公開する
シラバス掲載参考書と OPAC のリンクによる所蔵情報提供・学生用図書拡充サービスを開始する
北分館 3 階にレーン文庫コーナーを設置する

- 4月 「情報探索入門」を開始する
- 9月 創基125周年記念行事の一環として、「特別展示・講演会」を開催する
- 14年1月 北分館1階一般閲覧室を書庫へ転用する
- 2月 北分館に留学生対応多言語学習環境を整備する（マルチリンガル支援パソコン）
北分館に世界の主要日刊紙（CD-ROM）を整備する
- 4月 副館長が置かれ北分館長が兼ねることとなる
本館で国際ニュース衛星放送（CNN）の視聴を開始する
本館・北分館で休日（国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（1月1日を除く。）開館を実施する
- 11月 学外利用者の利用拡大を実施する
- 15年3月 北海道大学学位論文（新制）目録データベースに旧制分データを追加する
北分館マルチメディア公開利用室にエルネット受信設備を設置する
- 4月 道内公共図書館横断検索（DOpac）サービスを開始する

国立大学法人北海道大学時代

- 平成16年4月 「北方資料高精細画像電子展示」の公開を開始する
- 7月 スラブ研究センターの図書業務を統合する
- 12月 本館・北分館の休日開館時間延長の試行を実施する（2時間拡大）
- 17年3月 北京大学図書館との相互交流及び協力に関する覚え書きを締結する
- 8月 1階事務室（図書受入係・雑誌受入係）を書庫に改修する（事務室は2階に移転）
- 18年1月 第1種閲覧個室を廃止する
- 3月 「国立大学法人北海道大学における図書関係事務組織の在り方について」が了承される
北分館閲覧室（1階～3階）を改修する
- 4月 本館・北分館の管理業務を統合する
北海道大学学術成果コレクションの運用を開始する

表紙：元禄国絵図（松前藩） 元禄13年（1700）（模写）

江戸幕府は慶長10年（1605）および正保元年（1644）に全国の諸大名に各藩の地図（国絵図）の提出を命じたが、松前藩の国絵図は知られていない。しかし正保図については、全国の国絵図を総合して北条氏長が作製した「正保日本総図」から推定することができる。その地図における北海道、カラフト、千島諸島の輪郭や記載は後年の「元禄国絵図」に酷似しているので、それが松前藩から提出された「正保国絵図」にもとづいていたことが推定されるからである。

幕府は元禄13年（1700）にも諸藩に3度目の国絵図の提出を命じたが、そのとき松前藩が提出した蝦夷地図の原図は諸藩の国絵図とともに大正12年（1923）まで東京帝国大学附属図書館に保管されていた。それは松前藩の五代藩主矩廣が絵師小川養甫に描かせた極彩色の絵図で、縦二丈七尺（8.18メートル）、横二丈一尺（6.36メートル）の大地図であったという。残念なことに、この絵図は諸藩の国絵図とともに大正12年の関東大震災のときに焼失してしまったが、松前藩の元禄国絵図については震災前に地図学者蘆田伊人氏が原図を縦横10分の1に縮尺して模写したものが残っており、元禄当時の松前藩における北方地理の認識を知ることができる。

当室所蔵の松前藩の元禄国絵図は、上記の蘆田伊人氏の模写図を借写した簡略地図であるが、蘆田氏旧蔵の古地図をまとめて所蔵する明治大学図書館の『蘆田文庫目録 古地図編』（2004年刊）にはこの地図は含まれていないので、現在のところこの模写地図は原図を想像する唯一の手掛かりといえそうであり、松前藩が幕府に提出した地図の中で、現存する最古の北海道の地図と言われている。

（本館北方資料室所蔵）